

全国・県学力・学習状況調査結果 (H27・28)

【全国学力・学習状況調査テスト：県平均を100】

	H27	H28	
小 6	国語A	101.2	99.0
	国語B	96.4	95.2
	算数A	96.9	97.0
	算数B	93.7	92.7
	理科	96.8	実施なし
中 3	国語A	99.9	97.5
	国語B	99.2	95.6
	数学A	100.6	94.5
	数学B	100.0	92.4
	理科	101.0	実施なし

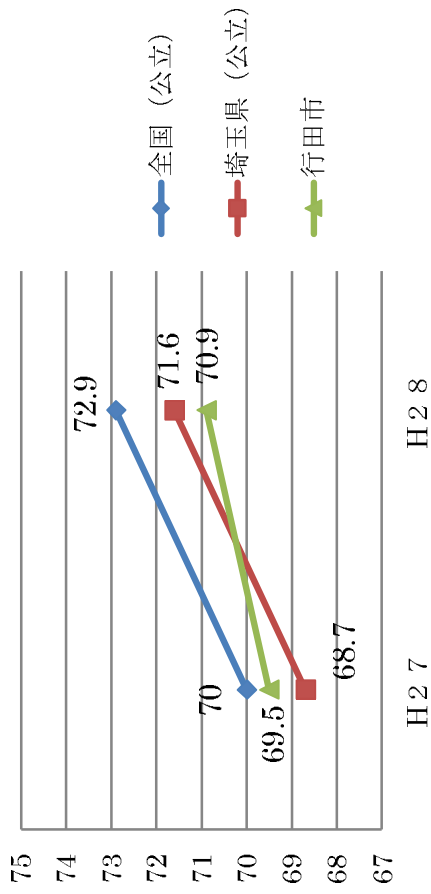
～第5次行田市総合振興計画「教育力の向上まちづくり指標」より～

【県学力・学習状況調査テスト：県平均を100】

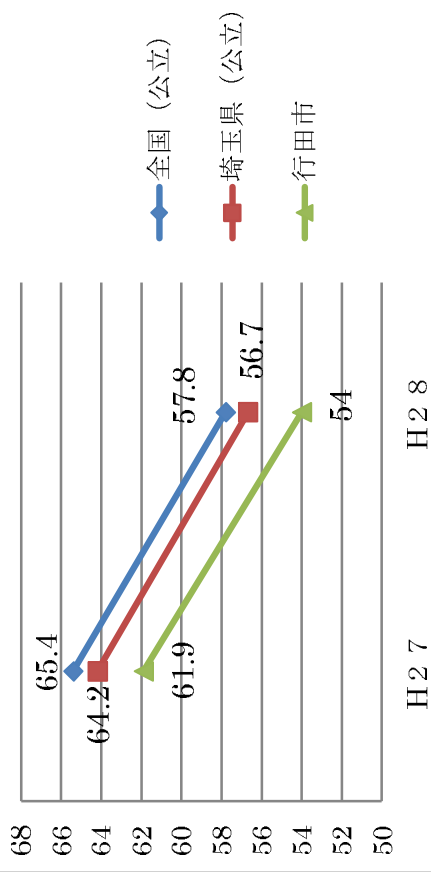
	H27	H28	
小 4	国語	98.4	99.3
	算数	95.8	97.7
小 5	国語	99.2	98.6
	算数	97.4	97.7
小 6	国語	98.0	101.3
	算数	98.1	98.6
中 1	国語	98.3	98.3
	数学	103.6	102.3
中 2	国語	98.0	96.7
	数学	96.4	97.8
中 3	英語	95.9	96.7
	国語	99.5	97.5
	数学	98.3	94.9
	英語	101.5	95.4

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果について《小6》(平成27年度と平成28年度の比較)

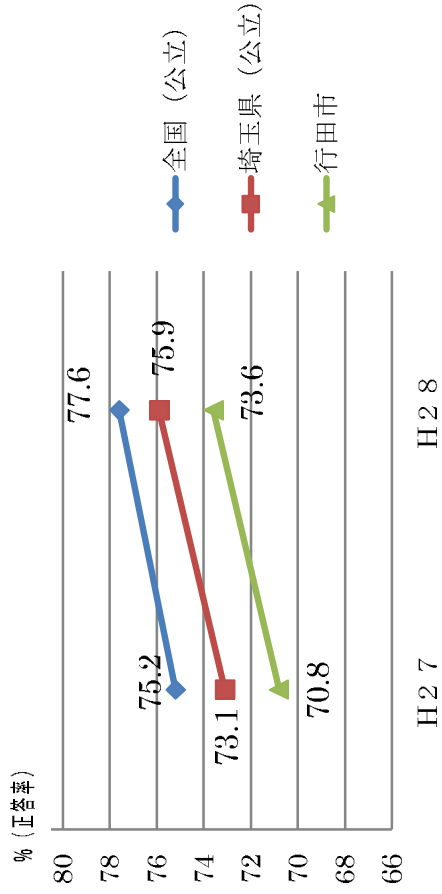
小6 国語A：主として知識



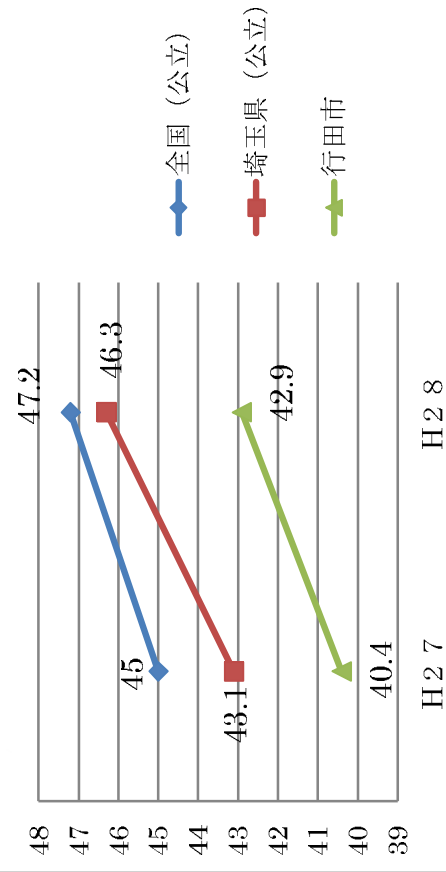
小6 国語B：主として活用



小6 算数A：主として知識

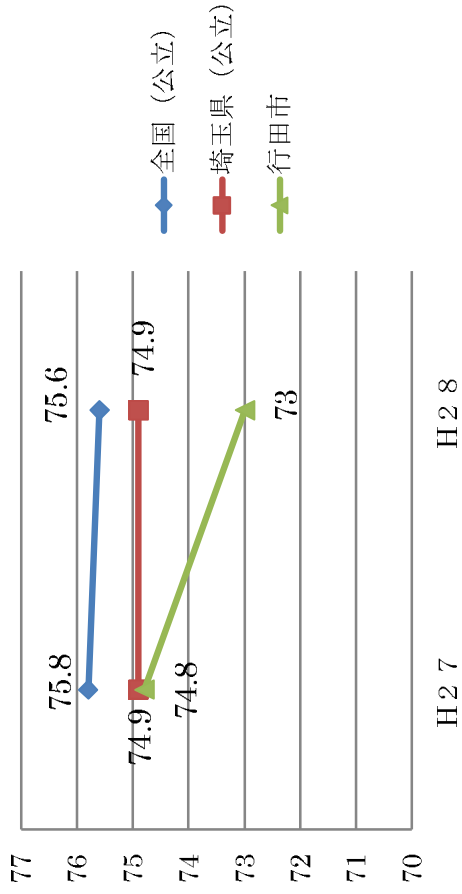


小6 算数B：主として活用

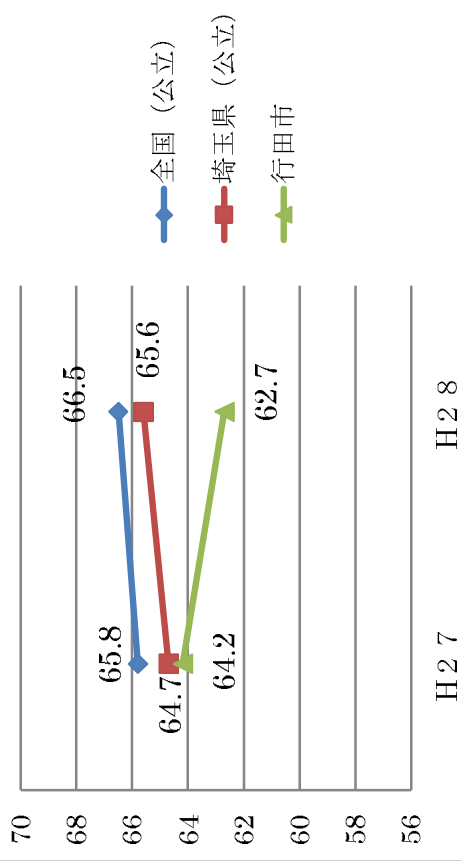


平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果について《中3》(平成27年度と平成28年度の比較)

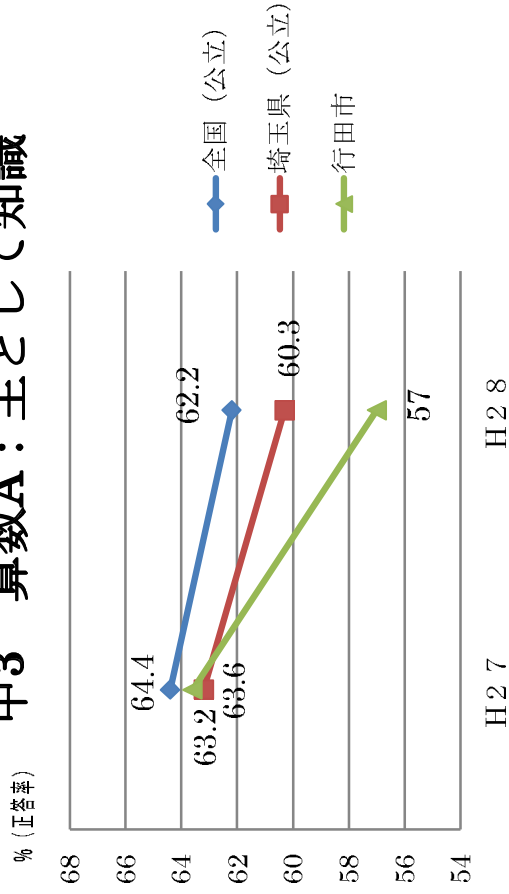
中3 国語A：主として知識



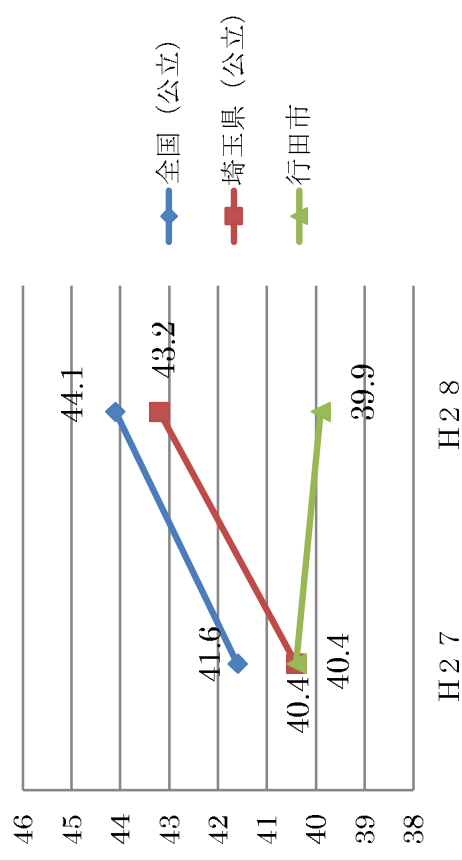
中3 国語B：主として活用



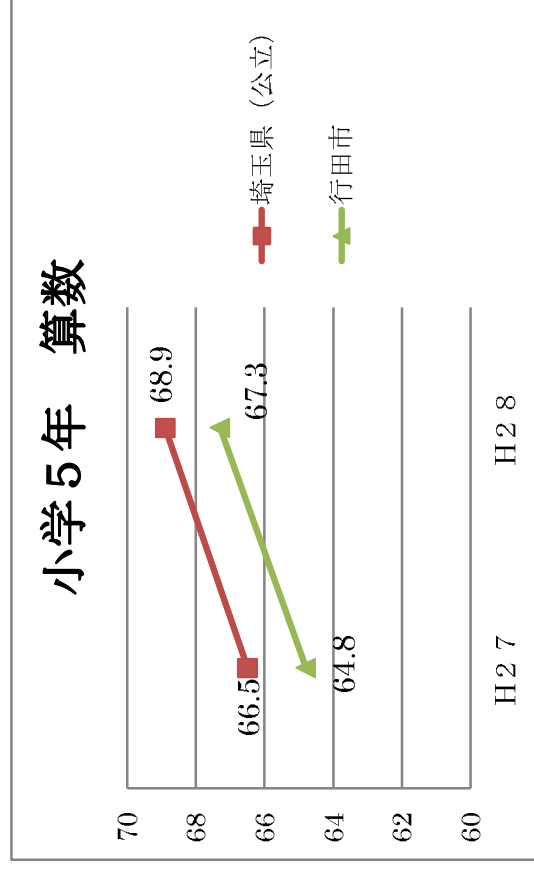
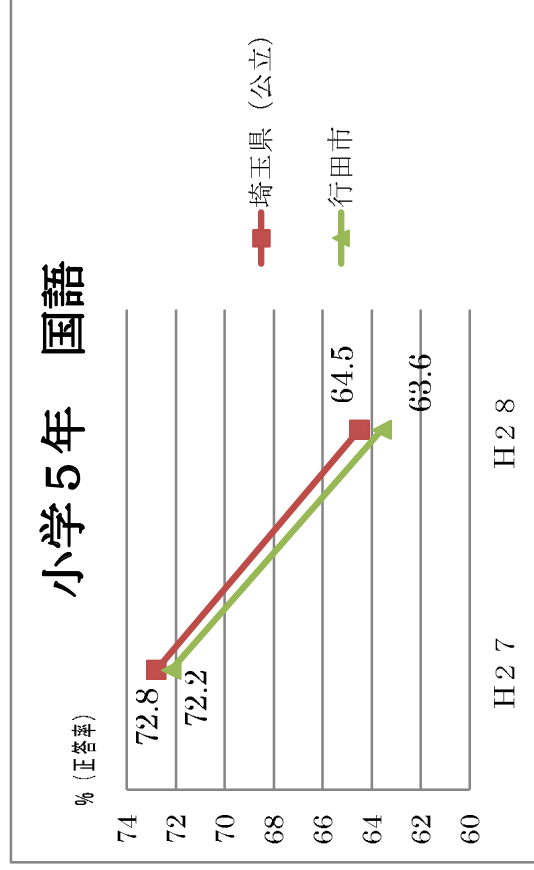
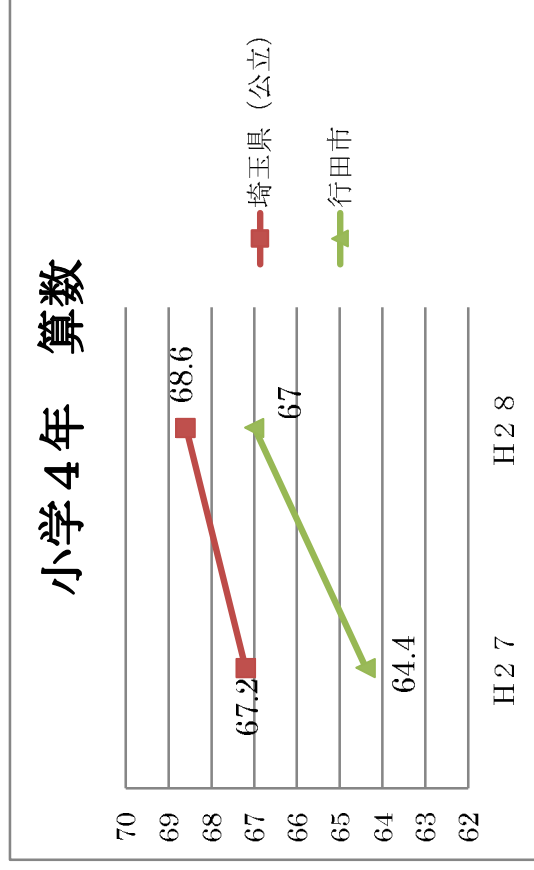
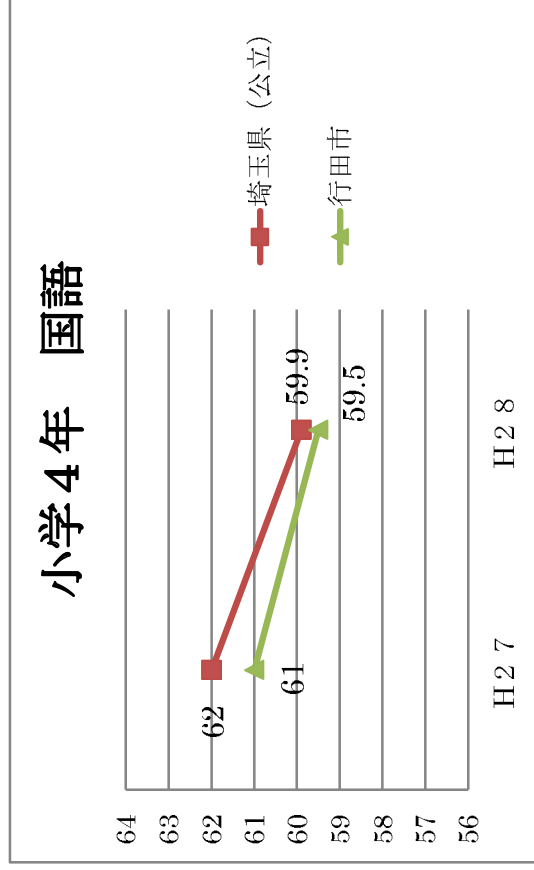
中3 算数A：主として知識



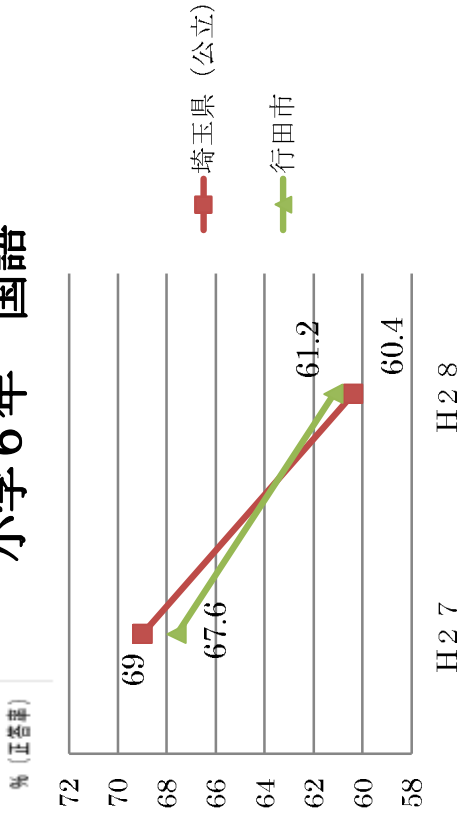
中3 算数B：主として活用



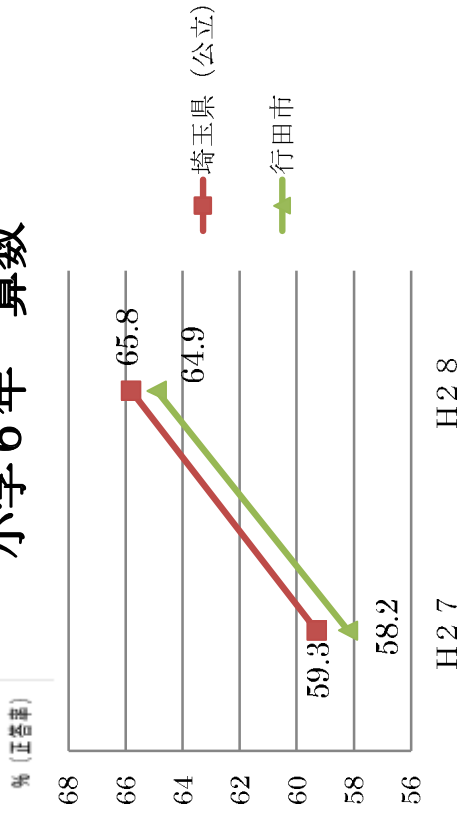
平成28年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果について（平成27年度と平成28年度の比較）



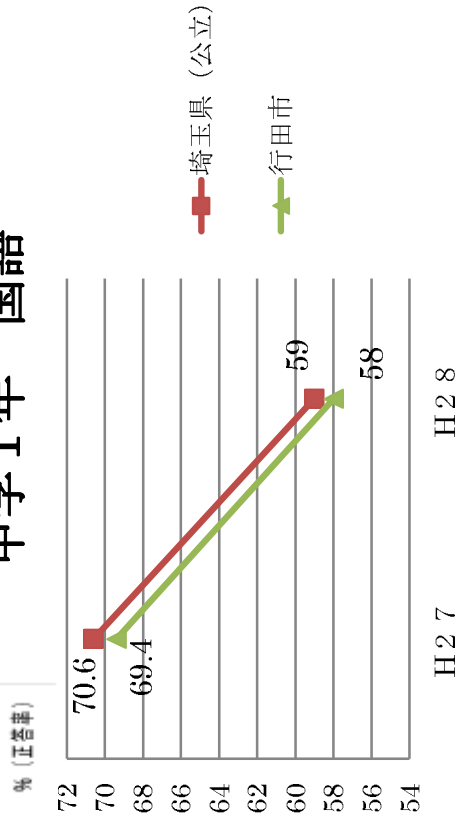
小学6年 国語



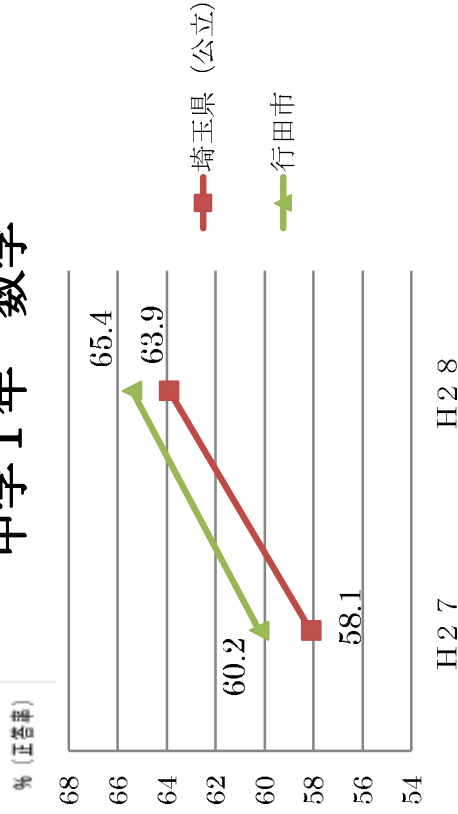
小学6年 算数



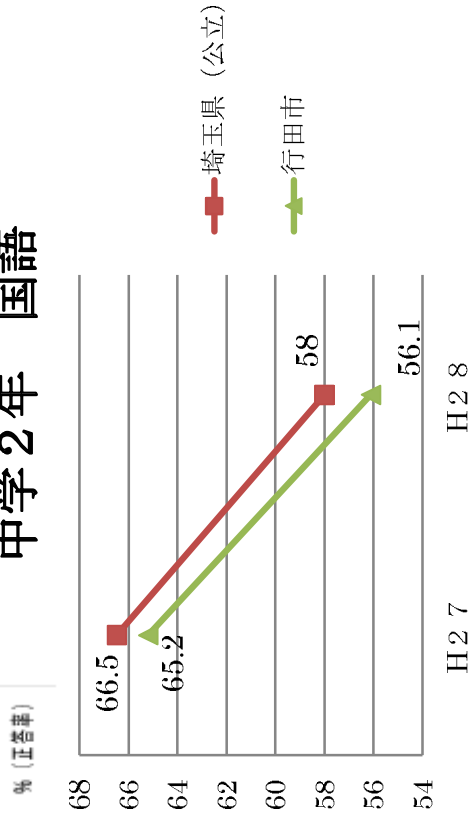
中学1年 国語



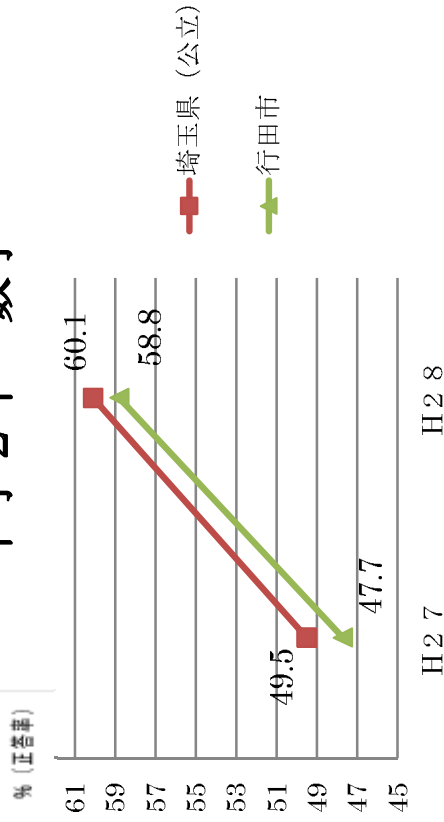
中学1年 数学



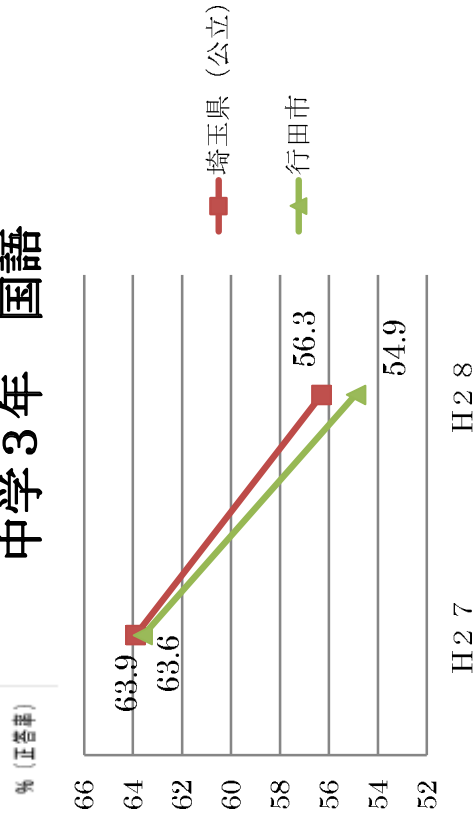
中学2年 国語



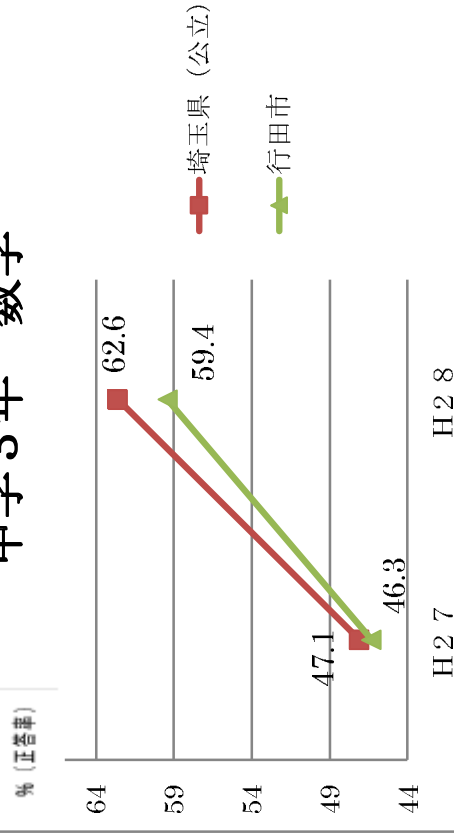
中学2年 数学



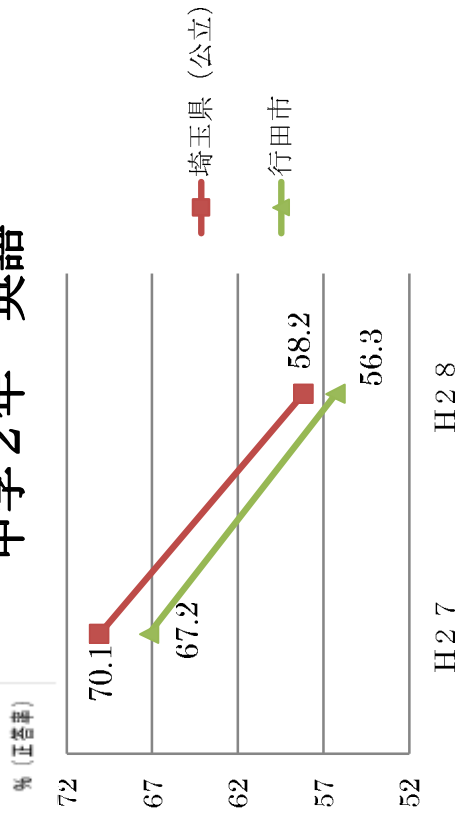
中学3年 国語



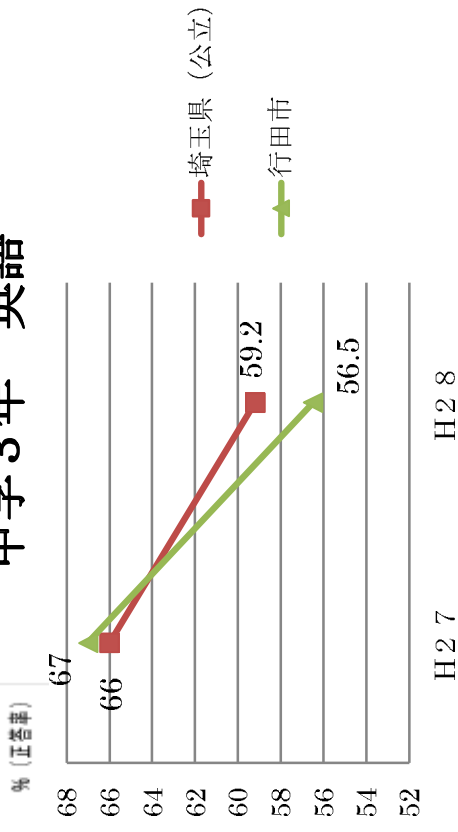
中学3年 数学



中学2年 英語



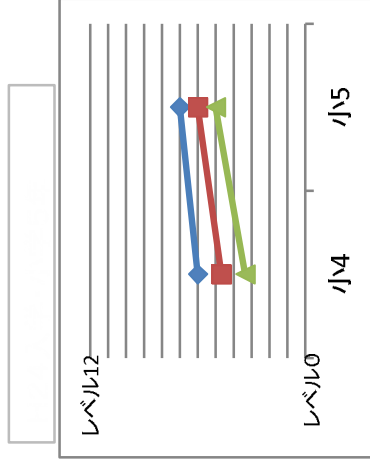
中学3年 英語



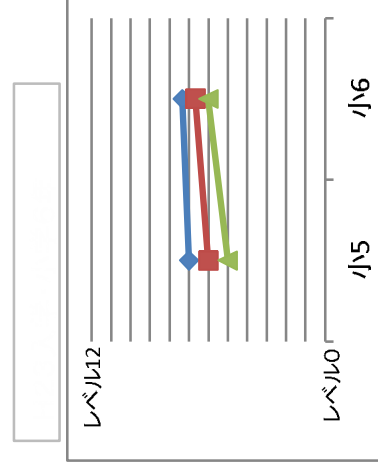
平成28年度 埼玉県学力・学習状況調査 学力の伸びの状況について<小学校>

学力の伸びの状況一覧【国語】

※学力レベル…1～12レベル、一つのレベルをさらに(A～C)に分ける。(合わせて36段階に分けられる。)



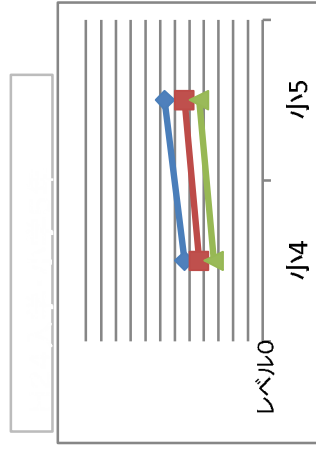
- ◇上位層の学力レベル
小4(レベル6-A)
→小5(レベル7-A)
- 中間層の学力レベル
小4(レベル5-B)
→小5(レベル6-A)
- △下位層の学力レベル
小4(レベル4-C)
→小5(レベル5-A)



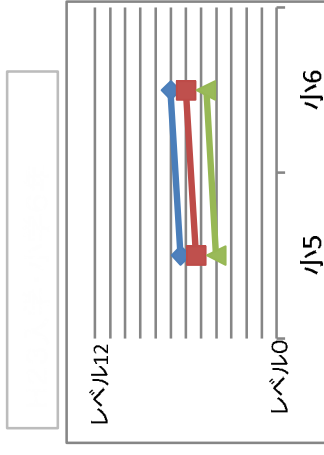
- ◇上位層の学力レベル
小5(レベル7-A)
→小6(レベル8-C)
- 中間層の学力レベル
小5(レベル6-A)
→小6(レベル7-B)
- △下位層の学力レベル
小5(レベル5-A)
→小6(レベル6-A)

学力の伸びの状況一覧【算数】

※学力レベル…1～12レベル、一つのレベルをさらに(A～C)に分ける。(合わせて36段階に分けられる。)

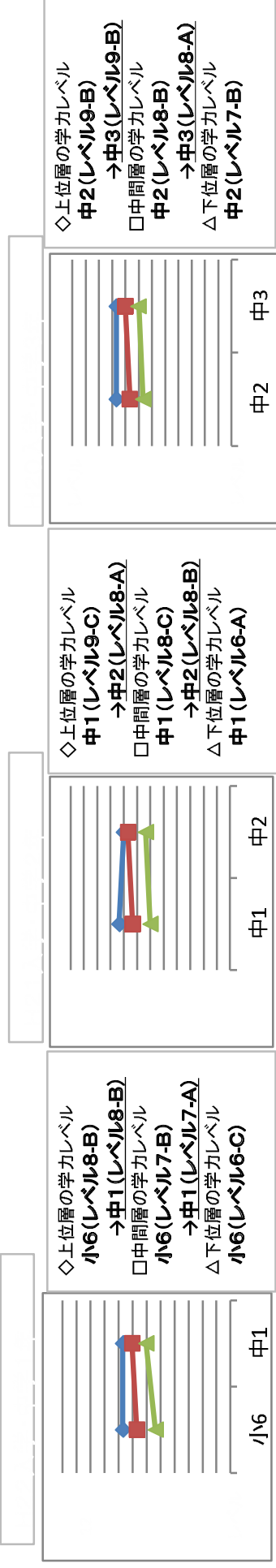


- ◇上位層の学力レベル
小4(レベル6-C)
→小5(レベル7-B)
- 中間層の学力レベル
小4(レベル5-C)
→小5(レベル6-C)
- △下位層の学力レベル
小4(レベル4-C)

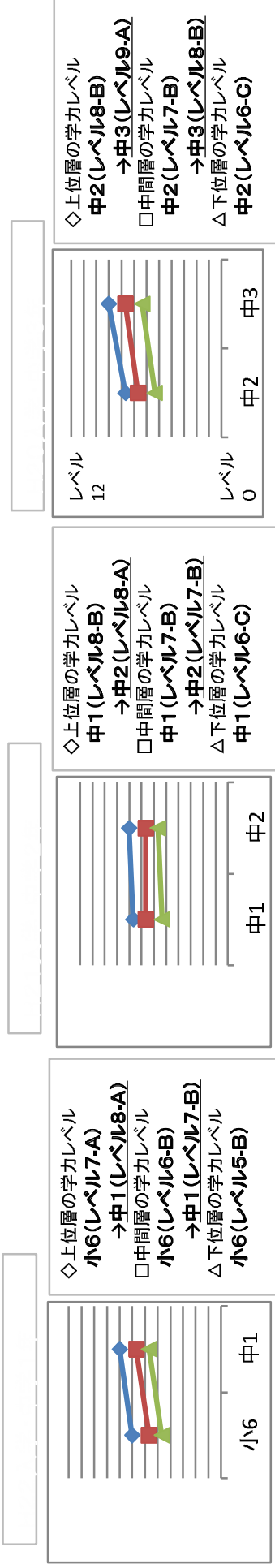


- ◇上位層の学力レベル
小5(レベル7-C)
→小6(レベル7-A)
- 中間層の学力レベル
小5(レベル6-C)
→小6(レベル6-A)
- △下位層の学力レベル
小5(レベル4-A)

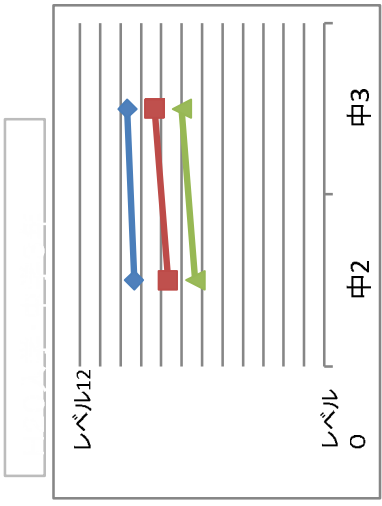
学力の伸びの状況一覧【国語】 ※学カレベル…1～12レベル、一つのレベルをさらに(A～C)に分ける。(合わせて36段階に分けられる。)



学力の伸びの状況一覧【数学】 ※学カレベル…1～12レベル、一つのレベルをさらに(A～C)に分ける。(合わせて36段階に分けられる。)



学力の伸びの状況一覧【英語】 ※学カレベル…1～12レベル、一つのレベルをさらに(A～C)に分ける。(合わせて36段階に分けられる。)



◇上位層の学カレベル
中2(レベル10-C)
→中3(レベル10-B)

□中間層の学カレベル
中2(レベル8-B)
→中3(レベル9-C)

△下位層の学カレベル
中2(レベル7-C)

行田市教育委員会の学力向上策

1 まちづくり指標（学力指標）の設定

全国及び県学力状況調査の県平均点を100として本市はどのくらいのレベルにあるかを調べ、5年後にはすべての学年・分野で100を超えることをめざす。

【例】全国学力学習状況調査（平成28年度・小学校6年生）

国語A：県100、本市99.0 国語B：県100、本市95.2
算数A：県100、本市97.0 算数B：県100、本市90.9

2 学力向上推進委員会の取組

（1）行田版「家庭学習のすすめ」の活用

- ①小学校1・2年生：「基本的な学習習慣を身につける」 15～30分
- ②小学校3・4年生：「自主的な学習習慣を身につける」 30～60分
- ③小学校5・6年生：「自学自習の習慣を身につける」 50～90分
- ④中学校1～3年生：「自分に合った学び方を身につける」 60分～

（2）行田版「ノート指導の手引き」

教職について間もない教職員が増えているため、授業中でのノートのとり方、家庭学習におけるノートの使い方等をまとめた「手引き」を作成中である。内容のポイントとしては、ノートづくりのためのノート指導ではなく、思考力、表現力の育成につながるノート指導となるようにしたい。具体的には①授業における学習内容を正確に記録すること、②授業のポイントを明確にすること、③自分の考えをまとめること、④板書にはない教員の補足説明や他の生徒の意見などを記録すること等に留意したい。

（3）各学校における「学力向上」に係る取組プランの提出

全国及び県学力状況調査の成果と課題の分析を行うことを通して、各学校の課題に対する改善策・取組プランをたて教育委員会に提出願う。

3 パワーアップサポーター（学習支援員）の配置

（1）背景

小学校中学年頃から学習内容が難しくなり、学力の二極化がみられる傾向にある。中学年の時の学力の積み残しは小学校高学年、ひいては中学生の学習内容にも大きな影響を及ぼしているのが現状である。積み残しを極力減らし個人差が広がらないようにするためには、この時期に一人一人に応じた指導を行い、個々の課題解決を図ることが重要である。

(2) 事業内容

- ①全小学校16校に週2日、パワーアップサポーターを非常勤講師として配置する。
- ②経験豊かな(60歳以上も可)ベテラン教師を配置し、児童の個別学習の充実と経験の浅い教職員に対する指導力向上のための指導も依頼する。

4 行田市独自の少人数学級編制

- (1)平成16年度から少人数学級を実施しており、本年度より小中学校全学年35人学級編制に拡大し、きめ細やかな指導の充実を図っている。
- (2)本年度の実績：小学校12人 中学校10人(国2、数1、社2、理1、英3、保体1)
- (3)市独自の研修：教育長、教育研修センター所長、指導主事が中心となり、授業研究会、講義、演習等、年間8回の研修を実施している。

5 小学校英語活動の充実

- (1)平成17年度より、小学校1年生から英語活動を実施している。
- (2)各学年における取組の様子
 - ①1・2年生(年間10時間の活動を余剰時間で実施している。)
 - ②3・4年生(年間35時間の英語活動を、総合的な学習の時間の70時間から35時間を減じて実施する。)
 - ③5・6年生(国の規定どおり年間35時間の英語活動を実施している。)
- (3)行田市独自の「英語活動カリキュラム」を活用して学習を進めている。

6 小中一貫教育の推進

- (1)行田市教育委員会が考える小中一貫教育：中学校区内の小・中学校が「目指す児童生徒像」や「重点目標」を設定、共有し、その実現を図るため、9年間を見通したカリキュラムを編成して、それに基づき行う系統的な教育を行う。
- (2)小・中学校9年間の学びと育ちの連続性を重視した教育により、○小・中学校9年間を支える教職員の意識高揚につながり、その結果、学習意欲の向上が向上し確かな学力を育成できる、○中一ギャップを解消でき、豊かな心を育成することができるということをねらっている。
- (3)埼玉中学校区と太田中学校区の研究指定
 - ①太田中学校区：太田3校の全教職員が、4グループ(小中一貫教育課程の作成、生徒指導、体力向上、特別支援教育)に分かれて研究をしている。また、行事等の連携さらには小・小、小・中の連携等の研究を推進している。
 - ②埼玉中学校区：埼玉2校の全教職員が算数・数学及び道徳科の小中一貫教育課程の作成・実践、行事等の連携、生徒指導等の連携、児童・生徒同士の交流等の研究を推進している。